

## ベクトル空間の定義

**定義 0.1 (ベクトル空間).**  $F$  を体とし,  $F$  の元をスカラーと呼ぶ. 空でない集合  $V$  が  $F$  上のベクトル空間であるとは,  $V$  の元に対して, ある 2 つの演算が定義されていてある性質を満たしているときをいう.

- 加法と呼ばれる演算が定まっていて,  $+$  を用いて表し,  $(u, v) \in V \times V$  に対して  $u + v \in V$  を対応させる.
- スカラー倍と呼ばれる演算が定まっていて, 並べて書き表し,  $(c, u) \in F \times V$  に対して  $cu \in V$  を対応させる.

さらに次の性質が成り立つ.

- 任意の元  $u, v, w \in V$  に対して,  $u + (v + w) = (u + v) + w$ .
- 任意の元  $u, v \in V$  に対して,  $u + v = v + u$ .
- $V$  のある元  $0$  が存在し,  $0 + u = u + 0 = u$  を任意の  $u \in V$  に対してみたく.
- 任意の元  $u \in V$  に対して,  $V$  の元  $-u$  が存在して,  $u + (-u) = (-u) + u = 0$  を満たす.
- 任意のスカラー  $a, b \in F$ ,  $F$  の単位元  $1$  と任意の元  $u, v \in V$  に対して, 次が成り立つ.

$$a(u + v) = au + av$$

$$(a + b)u = au + bu$$

$$(ab)u = a(bu)$$

$$1u = u$$

- ベクトル空間のことを線形空間ともいう.
- ベクトル空間  $V$  の元のことをベクトルという.
- ベクトル空間  $V$  に対して,  $F$  を係数体という.
- $\mathbb{R}$  上のベクトル空間を実ベクトル空間といい,  $\mathbb{C}$  上のベクトル空間を複素ベクトル空間という.
- 条件 (i) から (iv) は  $(V, +)$  がアーベル群であるということ.

**定義 0.2.**  $U$  をベクトル空間  $V$  の空でない部分集合とする.  $U$  の 1 次結合とは,

$$a_1 u_1 + \cdots + a_n u_n = \sum_{i=1}^n a_i u_i$$

という形のベクトルである. つまり, ベクトル  $u_1, \dots, u_n \in U$  をそれぞれ  $a_1, \dots, a_n \in F$  倍したものの和である. スカラー  $a_1, \dots, a_n$  を 1 次結合の係数という. 1 次結合が自明であるとは, すべての係数  $a_i$  が 0 であるときをいう.

ベクトル空間の例に関しては次回にする.

定義より簡単に得られる性質

$\mathbf{0}$  を零ベクトルという.

**命題 0.3 (零ベクトルの一意性).** ベクトル空間  $V$  の任意のベクトル  $v$  に対して,

$$v + \mathbf{0} = v \quad (1)$$

となるような  $V$  のベクトル  $\mathbf{0}$  が  $v$  によらずにただ一つ存在する.

*Proof.* 一意性について示す. いまベクトル  $\mathbf{0}$  と  $\mathbf{0}'$  が (1) をみたすとする. 任意のベクトル  $v, v'$  に対して, 定義 (iii) より, 次が成り立つ.

$$v + \mathbf{0} = v$$

$$v' + \mathbf{0}' = v'$$

ここで  $v$  と  $v'$  は任意だったので,  $v = \mathbf{0}'$  と  $v' = \mathbf{0}$  を代入して,

$$\mathbf{0} = \mathbf{0} + \mathbf{0}' = \mathbf{0}' + \mathbf{0} = \mathbf{0}'$$

を得る.

□

**命題 0.4.** あるベクトル  $x$  が, あるベクトル  $v$  に対して,

$$v + x = v$$

となるならば,  $x = \mathbf{0}$  となる.

*Proof.*  $v$  に対して  $-v$  が存在して,  $v + x = v$  の両辺に加えることで, 左辺は

$$v + x + (-v) = v + (-v) + x = \mathbf{0} + x = x$$

となり, 右辺は  $v + (-v) = \mathbf{0}$  となるので主張を得る.

□

**命題 0.5.** 任意のスカラー  $a \in F$  と任意のベクトル  $v$  に対して,

(i)  $0v = \mathbf{0}$

(ii)  $a\mathbf{0} = \mathbf{0}$

(iii)  $(-1)v = -v$

*Proof.*

$$0v = (0+0)v = 0v + 0v$$

したがって両辺  $-0v$  を加えると,

$$\mathbf{0} = 0v$$

を得る. また, 定義から  $\mathbf{0}$  は  $\mathbf{0} + u = u + \mathbf{0} = u$  を任意の  $u \in V$  に対してみたすので, 特に  $u = \mathbf{0}$  とすると,

$$\mathbf{0} + \mathbf{0} = \mathbf{0}$$

が成り立つ. よって

$$a\mathbf{0} = a(\mathbf{0} + \mathbf{0}) = a\mathbf{0} + a\mathbf{0}$$

となるから  $a\mathbf{0} = \mathbf{0}$  が成り立つ.

定義より  $1v = v$  であるから,

$$v + (-1)v = 1v + (-1)v = (1-1)v = 0v = \mathbf{0}$$

となるから両辺  $-v$  を加えると,

$$(-1)v = -v$$

を得る.

□

**定理 0.6 (逆元の一意性).** ベクトル空間  $V$  の任意の元  $\mathbf{a}$  に対し,  
その逆元  $-\mathbf{a}$  はただ一つ存在する.

*Proof.*  $\mathbf{a}', \mathbf{a}''$  を  $\mathbf{a}$  の逆元とする. まず

$$\mathbf{a}' = \mathbf{a}' + \mathbf{0}$$

が成り立つ.  $\mathbf{a}''$  は  $\mathbf{a}$  の逆元だから  $\mathbf{a} + \mathbf{a}'' = \mathbf{0}$  が成り立つので,

$$\begin{aligned}\mathbf{a}' &= \mathbf{a}' + \mathbf{0} \\ &= \mathbf{a}' + (\mathbf{a} + \mathbf{a}'') \\ &= (\mathbf{a}' + \mathbf{a}) + \mathbf{a}'' \\ &= (\mathbf{0}) + \mathbf{a}'' \\ &= \mathbf{a}''\end{aligned}$$

ここで  $\mathbf{a}' + \mathbf{a} = \mathbf{0}$  および加法の推移律を用いた. したがって, 一意性が成り立つ. □